

の員数に入れられてあり、これを加えると現行理事13名はすでに会則に反している。

- 2) 会則はみだりに改正すべきでないので、最小限度の改正にとどめる。

旧 理事10名以内
新 理事20名以内

4. 新 役 員

- 1) 現行理事13名のうち、鳥海 徹理事（岡山大名誉教授）、小野謙二理事（教育学部）は定年を迎えられ、また小林靖夫理事（理学部）、山根仁文理事（教養部）は辞意をもらされているので、評議員になっていただき、今後、会の発展に適切な助言をお願いしたい。

- 2) 新たに次のかたがたに常務理事として会の発展に関する実務をお願いしたい。

丹羽皓二教授（岡山大・農）

佐藤勝紀助教授（岡山大・薬）

亀井干晃助教授（岡山大・薬）

山本敏男助教授（岡山大・歯）

片山泰人講師（岡山大・医）

佐藤芳範次長（林原研）

内藤一郎研究員（重井研）

一順不同一

- 3) 会長には引きつづき猪 貴義理事をお願いしたい。

- 4) 理事にはつぎのかたがたをお願いしたい。

矢部芳郎教授（岡山大・医）（再任）

田坂賢二教授（岡山大・薬）（〃）

三谷恵一教授（岡山大・文）（〃）

倉林 譲助教授（岡山大・医）（〃）

山下貢司教授（川崎医大）（〃）

栗本雅司所長（林原研）（〃）

沖垣 達副所長（重井研）（〃）

石井 猛教授（岡山理大）（新任）

永井 廣教授（岡山大・歯）（再任）

一順不同一

- 5) 従来欠員であった評議員には、前記の鳥海、小野、小林、山根各教授のほか伊藤国彦助教授（岡山県立短大）、三枝誠行講師（岡山大・教養）のお二方をお願いしたい。

- 6) 監事には引きつづき中江利孝教授（岡山大・

農）、高橋正侑教授（ノートルダム清心女子大）をお願いしたい。

以上、会長1名、常務理事7名、理事9名、評議員6名をもって新役員とすることをお願いしたい。

（文責 永井 廣）

岡山実験動物研究会の活動経過

佐藤 勝紀 （岡山大学・農学部）

岡山実験動物研究会が発足して、早いもので5年目を迎えようとしています。この間、会員ならびに会員外の方々から、多大のご理解とご支援を頂き、本研究会の活動が着実に進められてきています。本研究会はこれまで13回開催されておりますが、ここで、これまでの経過を振り返ってみます。

第1回岡山実験動物研究会：昭和57年12月7日、岡山市郵便貯金会館で開催。設立総会。特別講演「実験動物における発生のひずみの技法別研究法」—永井 廣教授（岡山大・歯学部）、「岡山実験動物研究会の今後のあり方」についての討論。

第2回岡山実験動物研究会：昭和58年4月30日、岡山大学農学部で開催。研究会会則についての審議、承認。特別講演「哺乳動物による変異原性試験」—土川 清先生（国立遺伝学研究所、静岡実験動物研究会会長）、「実験動物研究における最近の話題」—猪 貴義教授（岡山大・農学部）

第3回岡山実験動物研究会：昭和58年9月30日、重井医学研究所で開催。映画上映「染色体上に書かれたネズミの歴史」—吉田俊秀先生（国立遺伝学研究所、細胞遺伝部長）編集。特別講演「哺乳類発生学の基礎と応用」—館 鄰先生（東大・理学部）

第4回岡山実験動物研究会：昭和58年12月3日、林原生物化学研究所、藤崎研究所で開催。特別講演「林原生物化学研究所の概要」—栗本雅司先生（林原・藤崎研究所所長）、「実験動物の開発—特にその遺伝学的手法について」—永井次郎先生（カナダ農商務省研究所、部長）

第5回岡山実験動物研究会：昭和59年5月19日、岡山大学歯学部で開催。特別講演「先天異常に関

する動物データの解釈—とくにヒトへの外挿」—西村秀雄先生(京都大学名誉教授),「Genetic engineering in Dentistry」—Harold M. Slavkin 教授(南カルフォルニア大学)

第6回岡山実験動物研究会: 昭和59年12月8日, 岡山大学医学部で開催。特別講演「動物実験と私」—小川勝士教授(岡山大・医学部・病理学教室), シンポジウム「実験動物の飼育・手技・管理・購入における問題点」(6演題)新薬開発における動物実験の問題点—亀井千晃先生(岡山大・薬学部), 中央動物施設運営における人間の意識調査の問題点について—北 徳先生(川崎医大・岡山実験動物センター), 岡大医学部附属動物実験施設における管理運営上の問題点とその対策について—倉林譲先生(岡山大・医学部・動物実験施設), ハムスター新生児の胸腺摘出と問題点—元田龍一先生(林原生物化学研究所), 重井医学研究所動物実験室の現状と問題点—内藤一郎先生(重井医学研究所), 岡山大学農学部における実験動物の飼育管理の問題点—佐藤勝紀(岡山大・農学部)

第7回岡山実験動物研究会: 昭和60年4月27日, 岡山大学薬学部で開催。一般講演(7題) 実験動物の薬効評価への応用—赤木正明先生(岡山大・薬学部), マウスにおける体重選抜とその効果—河本泰生先生(岡山大・農学部), 実験用ウサギに寄生するウサギツメダニについて—小郷 哲・北 徳・山下貢司先生(川崎医科大・実験動物飼育センター), 我々の飼育したハムスターにおける自然発生腫瘍について—矢部芳郎先生(岡山大・医学部), 経験に基づく実験動物の行動変容—三谷恵一先生(岡山大・文学部), 小動物の水洗ラックでの飼育, 特に出産について—河口充宏先生(林原生物化学研究所), 実験動物飼育施設より分離される緑膿菌の血清型について—北 徳・山下貢司先生(川崎医大・実験動物センター) 山口 司先生(川崎医大・附属病院中央検査部)

第8回岡山実験動物研究会: 昭和60年9月28日, 川崎医科大学で開催。一般講演(4演題) 実験用ウサギの無菌人工哺育について—小郷 哲・北 徳・山下貢司先生(川崎医科大・実験動物飼育センター), ラットの実験系球体腎炎の起きやすい系統, 起きづらい系統—佐渡義一・内藤一郎・沖垣

達先生(重井医学研究所), 川崎医大メディカルミュージウムにおける肉眼標本の作製: 実験動物の利用について—広川満良・三宅康之・原田由美・上野幸子先生(川崎医科大学), 中央実験動物施設の備えるべき機能とそれを機能させるに必要な条件について—北 徳先生(川崎医大・実験動物飼育センター)。交見会: テーマ1「動物実験施設中央化の得失」, テーマ2「動物実験における研究者と技術者の役割分担」

臨時特別講演会: 昭和60年11月5日, 岡山大学農学部で開催。「ポーランドにおいて医学生物学研究用に対して新しく開発された近交系マウスならびに Congenic strain マウスについて」—Alina Czarnomska 博士(ポーランド・ワルシャワ癌研究所)

第9回岡山実験動物研究会: 昭和60年12月14日, ノートルダム清心女子大学で開催。一般講演(5演題) 実験動物とミネラル, Rat を中心として—高橋正侑先授(ノートルダム清心女子大), 草食小動物における大腸の飼料消化能—坂口 英先生(岡山大・農学部), Golden Hamster の生育に及ぼす給餌・給水条件の影響—河口充宏先生(林原生物化学研究所), ゴールデン・ハムスターの成長における性二型について—山田明央氏(岡山大・農学部), 抗生物質とアルコール—亀井千晃・田坂賢二先生(岡山大・薬学部)

第10回岡山実験動物研究会: 昭和61年5月10日, 岡山大学農学部で開催。一般講演(4演題) 自動水洗ラックによる実験用小動物の大量飼育—河口充宏, 高橋太郎, 馬場洋子, 二浦久江, 佐藤芳範, 栗本雅司先生(林原生物化学研究所), 顆粒球系骨髓細胞の増殖について—中矢直樹, 田坂賢二先生(岡山大・薬学部), 霊長類胃粘膜の比較形態—鈴木一憲・永井 廣先生(岡山大・歯学部), 実験動物としての日本ウズラの開発—佐藤勝紀(岡山大・農学部), シンポジウム「動物の集団をどのようにとらえるか」(3演題) 昆虫の集団—吉田敏治先生(岡山・農学部), 動物集団の行動についての一解析—渡辺宗孝先生(岡山大・教養部), 実験動物における社会構造と密度効果—河本泰生先生(岡山大・農学部)。

第11回岡山実験動物研究会: 昭和61年9月13日,

重井医学研究所で開催。話題提供(2演題)「MCH動物の開発」—田口福志氏(日本クレア)・斉藤宗雄・吉村幸夫先生(実中研),「バイオハザード対策の設備及び施設計画」—堀田 勝氏(日本クレア), 特別講演「実験動物とのつき合い」—妹尾左知丸先生(重井医学研究所所長),「原爆放射線がもたらした災害—レントゲンからチェルノブイリまで」—阿波彰夫先生(広島放射線影響研究所, 遺伝学部長)。

第12回岡山実験動物研究会: 昭和61年12月6日, 林原生物化学研究所で開催。特別講演「実験動物における Genetic Monitoring の意義と役割」—山田淳三教授(京都大学医学部), 一般講演(3題)

・ スンクスの歯の発生—近藤信太郎先生(岡山大学・歯学部), Dietary Fiber について—中永征太郎先生(ノートルダム清心女子大), 自動水洗ラックを用いた小動物の大量飼育—佐藤芳範先生(林原生物化学研究所)。

第13回岡山実験動物研究会: 昭和62年3月30日, 岡山大学医学部で開催。発生工学懇談会, 岡山バイオ懇話会との共催。

フォーラム「生物のかたち作りの謎をとく—発生工学への道」記念講演 Nicole M. LeDouarin 博士(フランス科学振興機構発生学研究所所長), 賛助講演「細胞をよりわかる分子と動物のかたち作り」—竹市雅俊教授(京都大・理学部)